

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

⑥その他

●日本福祉大学医療・福祉マネジメント研究科医療・福祉マネジメント専攻 「高度な専門性を備えた福祉現場の人材養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

介護保険制度・医療制度改革などによって医療福祉現場においては、高度な医療・福祉の専門知識だけでなくマネジメント能力を併せ持つ人材が求められるようになった。そのニーズに応えられる高度専門職業人を養成することを目的として、医療福祉サービスと経営の両面におけるマネジメントを学べる新研究科「医療・福祉マネジメント研究科」を開設した。大学院と現場の循環システムをつくるため、①現場で活躍するロールモデルとなりうる人材を実務家教員として受け入れ、②現場の実務家と大学院の専任教員がともに参加して現場における研究課題に取り組む「実務家の参加する研究会」を組織し、③多様な実践事例をもとに教育課題を盛り込んで作成したケース教材を用いて多様な背景を持つ学生が参加し討論をする「ケースメソッド演習」を導入し、④現場で起きている問題状況を題材に実践を講義してもらう「福祉サービスマネジメント特講」の開講などを行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院 GP の目指した高度専門職業人養成を前面に押し出すため、既存の修士論文執筆を軸とする研究者養成を目的とする特別研究コースとは別に、現場で活躍する高度専門職業人養成を目的とする実践研究コースを設置した。そこで養成すべき人材が取り組むべき実践的な事例を題材とした学習や研究が可能となるように、上述した「実務家の参加する研究会」「ケースメソッド演習」「福祉サービスマネジメント特講」などを導入し、その研究活動や教材開発、講師役に、実務家教員に関わってもらった。専門科目の講義や1)サービス分野 2)地域分野 3)臨床分野、4)医療福祉経営分野の4クラスの専門演習で専門性を深めると共に、全分野の院生が「共通言語」を身につけるために一緒に履修できる講義科目や討論重視型のケースメソッド演習を配置して InterProfessional Education (IPE:多職種連携教育)も重視した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

新研究科として医療・福祉マネジメント研究科を開設し、初年度の2009年度には定員(30人)を上回る39人の一期生を受け入れた。教育目標について研究科委

員会で討論を重ね、7つの教育目標を掲げ、それらの行動目標も例示し、評価表を作成することで、院生が自己評価できるようになった。現場と大学院との循環の実例として、10あまりの「実務家の参加する研究会」が組織され、「福祉サービスマネジメント特講」は、学外者も含め延べ89人が履修・聴講した。ケースメソッド演習やその教材開発にも取り組む研究会には、院生だけでなく、修了生や学外からも参加者を得たり、業界団体などから研修依頼が寄せられるなどの波及効果が見られ、現場と大学院の循環を実現できた。これらを担う実務家教員として35人に委嘱をし、それらの多くは継続してその役割を担ってくれている。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

●日本福祉大学医療・福祉マネジメント研究科医療・福祉マネジメント専攻

「高度な専門性を備えた福祉現場の人材養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

主に社会人院生を対象として想定していたため、社会人でも学びやすい条件をつくるために、次のようなことを実施した。平日の夜間と週末の集中講義だけで修了に必要な単位が修得可能になるように時間割を配置した。通信教育課程の院生から出された対面授業への要望に応えるべく、実務家教員などが講師を務めるオムニバス講義「福祉サービスマネジメント特講」も週末に配置することで、遠隔地の院生も履修可能となるようにした。またインターネットを通じた教材の配付・閲覧が可能となるシステムとビデオ教材なども開発した。全国のどこにいても学べる通信教育課程の充実のために、スクーリングにおいてもケースメソッド演習を導入を図った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

週末に開講される集中講義や「福祉サービスマネジメント特講」の開講計画を4月に公表することで、社会人が年間計画を立てやすいようにした。仕事と学業の両立に苦勞する社会人院生が、多忙な中でも学習継続意欲を保てるよう少人数の院生同士の支え合いが生まれやすいように工夫した。具体的には、少人数からなるクラスを単位とした演習科目で、毎週のように同じ院生同士が顔を合わせられるよう時間割を工夫するとともに、発表会の後などに懇親会などをクラス毎に設ける機会を持つようにした。また、すべてではないが多くの教員が、指導を担当する数人の院生を集めて集団指導をしたり、それに向けて院生同士が相互に意見をフィードバックして論文を推敲する機会としてピアレビューを院生に推奨し可能な形で取り組んできた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

新研究科の過去2年の出願者72人のうち、現職者が64人と約89%を占めている。週末に開講した集中講義や「福祉サービスマネジメント特講」などは、入学した院生全員が1科目以上履修しており、社会人のニーズに応じていると思われる。通信教育課程に導入したケースメソッド演習は、ふだんは顔が見えない院生同士の討論の場ともなるためか、終了後のアンケートでも満足度が高い。例えば、初年度の受講生では、27人中18人が非常に満足、9人がやや満足であった。